

MMA Weekly Report

★★ 日経平均株価 ★★

By Raymond A Merriman

投資日報出版 (株)

コピー 対外 配布 厳禁

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3丁目12番11号 GRANDE 人形町6階

No. 1170 Feb. 17 2020

TEL 03-3669-0278 FAX 03-3668-4444

1. 回顧

先週の相場は前週比 140 ポイント安の 23,687。週の高値は 13 日 (木曜日) の 23,908、週の安値は 14 日 (金曜日) の 23,605。週のレンジは週間下値支持線と上値抵抗線の間を推移していたのでニュートラル。更にこの引け値は、週間トレンドインディケーターポイント (TIP) は 6 週中 5 週上回っていたが、基調は“ニュートラル”としたい。

2. サイクルズ

昨年発売された『フォーキャスト 2020』の中でも解説しているが、日経平均株価は 17 年周期の長期相場サイクルが存在していると見ている。その起点は 2008 年 10 月 28 日の 6,994。本年は起点から 12 年目となる。

17 年サイクルは 8.33 年サイクルで 2 分割され、2016 年 6 月 24 日の 14,864 と同年 2 月 12 日の 14,865 との“ダブルボトム”で前半が終了。ここから後半 (第 2-8.33 年サイクル) が始まっている。

更に、前者から 34 カ月目、後者から 30 カ月目に出現した安値が 2018 年 12 月 26 日の 18,948。全てのサイクルは、内包するサブサイクルで 2 分割、ないし 3 分割されるのだが、8.33 年サイクルが 3 分割されているのなら、この 18 年 12 月の安値は第 1-33 カ月サイクルボトムであったという見方になる。もしそうであれば、今月は第 2-33 カ月サイクルの 14 カ月目という事になる。

また週足サイクルは、先週のレポートで現行 PC (通常の日柄は 12~20 週) の起点に関して 2 つの見方が存在。1 つ目は昨年 8 月の安値 (8 月 6 日、15 日、26 日) をトリプルボトムとし、その内 26 日の 20,173 を起点とした PC が、そこから本年 1 月 8 日の 22,951 をもってボトムをつけ、ここから新 PC 入りしているという見方。もう 1 つは 1 月 8 日にボトムをつけずに延長 PC となってボトムを模索。トリプルボトムから 23 週目にあたる 2 月 3 日の 22,775 でボトムを形成、ここから新 PC 入りしているという見方である。現時点では後者の見方が有効と見られる。もしそうであれば今週はその 2 週目であり、「サイクルの序盤は強気」の原則に則って目先の相場基調は強いと思われる。

PC のサブサイクルは、通常であればその大半が 3 つの MC (4~6 週) で構成される 3 位相パターンか、2 つの ハーフ PC (通常 7~11 週) で構成される 2 位相パターンのどちらかになる。仮に 2 月安値からの新 PC が 3 位相パターンで構成されるのであれば、目下相場は第 1 MC の天井に向けて上昇中である公算が高い。そして現在、24,000~24,120 付近にある目先の上値抵抗に接近している。この値位置は昨年 12 月 17 日と本年 1 月 17 日に記録した高値でダブルトップの線形になっているかも知れないと思われていたゾーンである。超え切れれば強気型 PC である事が強力に示されると同時に、少なくとも起点から向こう 8 週間はこの PC の天井は出現しない、という可能性も強力に示される事になるだろう。実際、日柄の若さから考えると目先の上値抵抗を突破する可能性は高い。とはいえ、抵抗突破場面が現行 MC の天井形成場面で出現するか、第 2 MC の天井形成場面で出現するのかについては未だ不明だ。

その一方で、目先の上昇場面で 1 月 17 日の高値 (24,115) 超えに失敗した場合は最初に提示した見方、即ち現行 PC の起点が 2 月 3 日ではなく 1 月 8 日であった可能性が高まるだろう。この見方で現行相場をみた場合、2 月 3 日の安値は 22,775 なので、既に PC の起点を割り込んでいる事になる。

そしてこれは、現行PCの基調が弱気に転換した事を意味している。弱気PCにおける最安値はこのPCが終わる時、つまりPCボトム形成場面まで出現しない。その間相場は高安値共に切り下がり線の線形になる。そして今週はその6週目。更に起点から4週目に出現した2月3日の安値は第1MCボトムであったと見るべきであろう。従って今週は第2MCの2週目でもある。先述の通り、弱気PCの最安値は常に終点なので、1月17日の高値は現行PCの天井であり。日柄余地を考えると向こう6~14週間PCボトムに向けた高安値切り下がり値動きが続く事になるだろう。恐らく、第2MCは2月6日の 23,995 で天井をつけたものと思われる。そして第2MCがボトムをつける過程で、2月3日の 22,775 は割り込まれる筈である。MCボトムは今後2~5週間以内には出現するのではないだろうか。

以上の事から、目先の相場基調は(2月安値起点の強気PCとして)1月17日高値 24,115 を超え切るか、(1月安値起点の弱気PCとして)2月3日安値 22,775 を割り込むかのどちらかで大きく変わってくる。そして、どちらの展開になるかが判明するまで、強弱どちらのPCの見方が正しいのかは判らない。

現行PCの起点が1月と2月のどちらなのか、その違いによって長期相場サイクルの見方も変わってくる。以前からの記述も含め、先週のレポートではこう述べていた“…この手の不規則且つ奇妙な値動きを伴う相場変動は、しばしば何らかの長期相場サイクルがボトムをつける際に見られる現象として知られている。冒頭でも述べたように今月は第2-33カ月サイクルの14カ月目。以前から我々は、このサイクルに内包している16カ月サイクルが2020年5月±3カ月の何処かでボトムをつけると指摘していた。今月からその時間帯に入っている。…33カ月サイクルは、2つの16カ月サイクルで構成されていると見ている。…しかし当レポートでは以前、長期相場サイクル基調の強弱が判然としなかった際、8.33年サイクルが4年サイクルで2分割されている可能性も提示していた。その際、このサイクルは3つの16カ月サイクルで構成される事になる。この見方だと、18年12月の安値はあくまで2つ目の16カ月サイクルに過ぎず、そこから3つ目の16カ月サイクルボトムが出現し、その際に18年12月安値を下回る事になる。今月は18年12月安値から14カ月目なので、依然としてこの見方を完全否定する事が出来ない。…以上の事から、現在は日柄的に見て(1月なのか2月なのかという)正しい現行PCの起点、(第1なのか第3なのかという)正しい16カ月サイクルの存在、そして現行8.33年サイクルのサブサイクルが33カ月サイクルか4年サイクルかという正しい把握を明確化する上で重要な分岐点に位置していると言って良いだろう”。従って、現行16カ月サイクルに向けた下降局面が極めて厳しいものであった場合、これは(33カ月サイクルに内包する)第1-16カ月サイクルではなく、(4年サイクルに内包する)第3-16カ月サイクルである可能性は否定出来ない。なお、これについては「MMAサイクルズレポート」の中で詳しく述べたいと思う。

3. ジオコスミックス (天体位相の分析)

ジオコスミック面では8つの重要なジオコスミックシグナルを含んだ新たな時間帯が(米国時間)2月16日から3月9日まで続く。この時間帯は水星の逆行開始と共に始まり、逆行終了(順行)とともに終わる格好になるのだが、この期間中には多くの金融市場に大きな相場反転をもたらしかねない強力なジオコスミックシグナルが含まれている。従ってこれからの3週間の中で現行相場の正しいPC位相が恐らく浮き彫りになってくるのではないだろうか。

(米国時間)2月16日は、水星が逆行を開始する日だけではない。同日火星は山羊座に入居する。

水星逆行期間が不安定(erratic)な時間帯であるという事については、このレポートの読者であれば充分理解されておられる事だろう。テクニカル分析における売買シグナルにはダマシが生じやすく、それ故に目先の上値抵抗や下値サポートは一時的に打ち破られやすい。また、ダマシと呼ぶべき事象ではないかも知れないが、往々にしてこの期間中は各国の政治指導者及び中央銀行から矛盾した発表、あるいは驚くべき発表が飛び出しやすい点も水星逆行期の特徴といえる。更にこの期間中に下された決定事項は、行動に移す上で正当化すべき十分な情報を集める事なく進められた事象であり、後々になって修正する必要がある事が少なくない。加えて、今回の水星逆行は魚座内で始まる。この組み合わせはしばしば事実の正確性に課題が求められる事が少なくない。従って、投資家だけでなくトレーダーにとっても今回の水星逆行は混乱の時間帯になるかも知れない。

また火星の山羊座に入居している時間帯では、往々にして中央銀行も新たな政策を発表する頻度が高いとされる。そのため、不確実性が高く疑念を生じさせかねない行動を、各国の政治および金融当局の指導者たちが起こす可能性が今回の水星逆行では高くなるのではないかと我々は睨んでいる。更にこれを原因として、各種金融市場に短期且つ急激な価格変動を引き起こしかねないとさえ我々は考えている。実際そうなった場合、この手の価格変動は1~4営業日ごとに出現するのが通常とされている。

ただ、長期ジオコスミック要因に基づく我々の長期相場サイクル見通しについては、以前からこう述べている“(2019年11月の)「MMAサイクルズレポート」の中でも報告したように、1900年以降のデータを検証した結果、木星が射手座の10度から山羊座の20度まで運行している場面の何処かで長期相場サイクルは確固たる高値を形成していることが明らかになった。これを現在の天体運行に当てはめると、2018年12月21日から2020年10月31日までとなる”。木星は2019年12月2日に射手座から山羊座に移ったが、これまでこの期間中に出現した長期相場サイクルの天井の半分が木星射手座入居中に確認されていた。そして、残りの半分は木星が山羊座の20度に最初に通過した時間帯までに出現している。2020年中、木星の運行は山羊座の20度を3度通過する。本年最後の通過は10月31日、最初の通過は3月9日である。つまり上記の記述から鑑みて、現行相場は3月9日までに何らかの節目となる高値が出現する可能性が出て来ている。しかし、それは1月17日の24,115であったかも知れない。何故なら、この高値が出現する直前、1月12~13日にかけて土星と冥王星がコンジャンクション(0度)の関係にあったからだ。

ただし、これ以外に長期相場サイクルの基調が反転する確率が高そうな別の時間帯として、今年の金星逆行期間(5月13日~6月25日)を挙げる事が出来るだろう。実際、日経平均株価が長期相場サイクルの天井をつけた場合、(2021年2~12月に3回シリーズで出現する)土星・冥王星スクエア(90度)を要因とする、2021~2023年に出現するであろう長期相場サイクルボトムに向け、この相場は何処かで大きな下げがあるのではないかと、という見通しを、我々は未だに崩していない。

4. 目標値及びパターン

以前から述べている通り、私自身は2018年12月26日の安値(18,948)が長期16カ月、及び33カ月サイクルの起点であったという見方を現在に至るまで貫き通している。実際にそうであった場合、相場は今後1991年11月以来の高値水準であった2018年10月2日の高値24,448を試すか、場合によっては上回る可能性すらあるだろう。

先述の通り、相場は1月17日に24,116を記録。昨年12月17日の高値24,091を上回っていた。実際、値位置的には18年10月高値を試しにかかっている事には変わりはないが、現時点で上回る事は出来なかった。その一方で、米国株は同じく1月17日に史上最高値を更新。更にその後も強く、これにより日米株価指数間での「異市場間弱気ダイバージェンス」発生のフラグが立った格好となっている。

仮にここからの相場展開において、この再テストエリアが突破された場合、 $28,532 \pm 1,613$ に現行16カ月サイクルの天井目標値が設定されよう。ただし、今後数カ月以内に24,448超えに失敗した場合、4年サイクルボトムに向けた急落場面が出現する可能性が出て来る。この見方であれば2020年5月±3カ月の何処かで(第3-16カ月サイクルボトムと共に)ボトムが出現するという見方になるだろう。更に、1月17日高値(24,116)が現行16カ月サイクルの天井であった場合、 $21,532 \pm 610$ に修正安目標値が設定される事になるだろう。なお、現時点で確認されているPCボトムは昨年8月に20,110~20,173の間で出現したトリプルボトムであった。この値位置もまた、現行16カ月サイクルボトムのサポート水準として有効と言える。しかし、今後の相場がこのサポート水準を割り込んだ時点で、現行8.33年サイクルが4年サイクルで2分割されている可能性が再度復活するだろう。それは即ち、現行相場が先述の18年12月安値を再度試しにかかる可能性が出て来る事を意味する。なお、上記18年12月に33カ月サイクルボトムが出現して以降、最も急激な下降局面は高値から10%に及ぶものであった。現行16カ月サイクルがボトムをつける際、1月17日の高値から少なくとも10%程度の下げがあるのではないかと我々は睨んでいる。実際にこの読み通りであれば、目先の相場は少なくとも21,705付近までは下がる、という計算になる。

その一方で、昨年12月17日と本年1月17日の高値に起因する24,091～24,115のダブルトップエリアは現在、強固な上値抵抗となっている。目先の相場基調が強気トレンドに復帰するためには、このエリアを突破してここまでの弱気チャートパターンを崩す必要があるだろう。それが実現出来た場合、23,525±540に設定されていた値位置が、依然として現行16カ月サイクルの天井目標値として機能する事になるだろう。

なお、当レポートでは以前からこう述べている“…目先の相場が24,091よりも1.5%以上の値位置を超え切れなかった場合、現行PC、並びに現行16カ月サイクルのボトムに向けた急激な下降局面が始まろうとしているシグナルになるだろう。現状、1月中の最高値は17日の24,115。これは値位置的に昨年12月高値(24,091)とのダブルトップチャートフォーメーションのレンジ内にあたる。注意したいのは、長期相場サイクルが天井をつける際、往々にして相場はダブルトップの線形になりやすいという点。そのため、目先の相場展開に我々は警戒する必要がある”。

この警戒は依然として有効である。

なお、先月末以降の日足ではギャップが多く見受けられた。1月24日～27日にかけて相場は23,463～23,755で強力なギャップダウンが生じていた。

更に2月に入ると4～5日に23,118～23,241、5～6日に23,414～23,625と2回、強力な“ギャップアップ”が見られた。先週の安値は14日の23,603であったが、今週17日の寄り付きが23,603以下で始まった場合、週足ベースでの“ギャップダウン”が生じる危険性がある。

それだけではない。仮に今週の寄り付きでギャップダウンした場合、日足では「弱気アイランドリバーサル」の線形になる。これは目先の相場が深刻な下降局面に陥る前兆として出現するチャートパターンである。具体的にはそれ以前に発生していた“ギャップアップ”の水準を跨ぐようにして“ギャップダウン”する現象のことを指す。

先週のレポートでは“テクニカル的に見て、このギャップの内低い方の下限(23,118)を引け値で割り込まない限り、基調は強気と見なされよう”と述べていた。しかし、今週の寄り付きで23,603を割り込んで“ギャップダウン”した場合、前週の“ギャップアップ”に伴う強気見直しにとって代わるような新たな弱気見通しが発生しよう。

なお、日足移動平均は先週13日移動平均(23,455)が39日移動平均(23,688)を下回っていた。しかし、実勢相場は引け値で両平均の間に収まっていた。従ってこれは、日足で見た相場基調が依然として“ニュートラル”であるという事を意味している。ここから13日平均が39日平均を上回り、尚且つ相場が両平均を上回ると、基調は“強気”に格上げされるが、現在の状態のまま相場が引け値で両平均を下回ると、基調は“弱気”となるだろう。

一方、週足移動平均は先週も24週移動平均(23,030)が39週移動平均(22,285)を上回っており、実勢相場も引け値ベースで両平均を上回っていた。従ってこれは、長期トレンド基調が依然として“強気”であるという事を意味している。ここから相場が両平均を下回ると、基調は“ニュートラル”に格下げされ、更にその状態の中で24週平均が39週平均を下回ると、基調は“弱気”へと格下げされよう。

15日スローストキャスティックスは先週末の時点で%K=82.91が%D=80.27を上回っている。仮に今後%Kが%Dを下回り、尚且つ71%を割り込むと基調はより弱気になる。現時点で基調はまだ強気ではあるものの、転換する危険性が高まっている。

もっと懸念されているのが15週スローストキャスティックスの動向だ。この指標は先週末の時点で%K=53.50が%D=71.67を下回っている。明確に両指標は下値を指向しており、これは弱気を示唆している。2月3日の安値が延長PCボトムにして現行PCの起点ではなく、1月8日の安値を起点とする弱気PC内の第1MCボトムに過ぎない、という見方の根拠になっているのがこの週足ストキャスティックスの動きである。ただし、指標の一部は42～58%のニュートラルゾーンに入った。目先のこの数値はカールアップを始めて反転する可能性がある。

5. テクニカル下値支持線および上値抵抗線

週間下値支持線は23,614～23,620、23,535～23,558、及び23,211～23,298に存在している。週の引け値が23,535を下回れば弱気、週の途中で下回っても、週の引け値で23,558を上回れば強気トリガー。

週間上値抵抗線は 23,749~23,755、**23,840~23,863** 及び 25,041 に存在している。**週の引け値が 23,863 を上回れば強気。**ただ週の途中で上回っても、週の引け値で **23,840** を下回れば弱気トリガー。

週間トレンドインディケーターポイントは現在 **23,484**。今週、引け値でこの値位置を上回ると、基調は“ニュートラル”から“上昇トレンド”へと格上げされよう。

強気クロスオーバーゾーンは依然として 23,002~23,142、**21,977~22,192**、21,320~21,570、19,751~20,073、19,469~19,661、18,771~18,972、15,546~15,882、14,919~15,779、14,813~14,919…に存在。これらはサポートゾーンとして機能している。

弱気クロスオーバーゾーンは現在存在していない。従って既に破られている 23,481~23,685（先週の安値はこのゾーンで維持されていた）、**21,852~22,114**、16,740~16,816、16,069~16,347、14,813~15,204 は現在、有力なサポートゾーンとして機能している。

当レポートでは以前から注意すべきポイントとして、上記のサポートゾーンが **21,977~22,114** の値位置で重複しているという点を指摘。“ひょっとすると、目先の相場はこの重複水準に向かっているのかも知れない”と述べていたが、2月3日の **22,775** でサポートされていなかった場合、目先の相場はこの重複水準に向かう可能性がある。

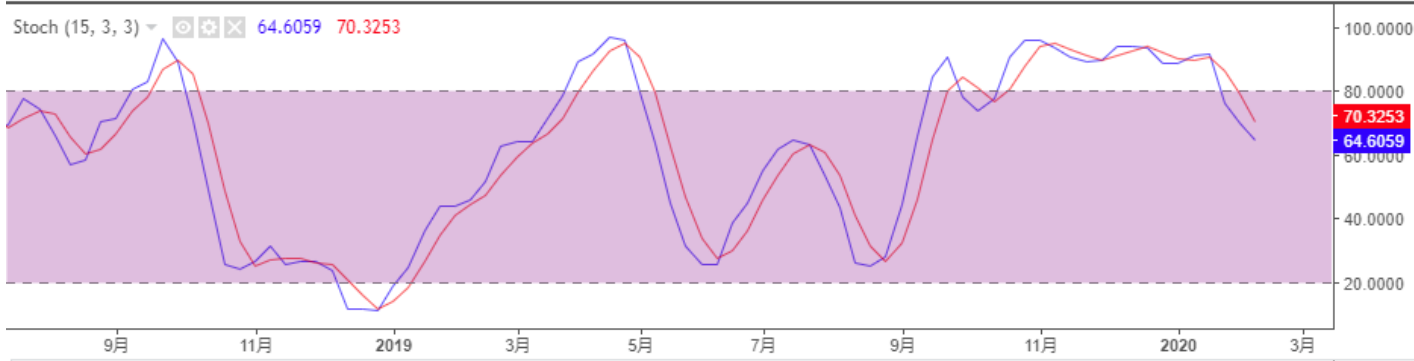
6. 今週のストラテジー

ポジショントレーダは現在ショート。前回のレポートと同様に今週も 24,116 以上の引け値にストップロスを入れて、この売りポジションを保持しておきたい。

一方、積極的トレーダはショートからストップアウトしてフラットであったが、先週のレポートで“…24,000±100 付近で再度売り参入を図りたい。…その際、ストップロス水準は 24,116 以上の引け値に入れておく”とアドバイスしていたので売り参入が出来ている。今週は、上記のストップロスを踏襲してこの売りポジションを保持。その上で、目先はどのような相場展開になるかを見極めたい。

日経平均株価, 日本, 週, 東京 (CFD) 始値23631.79 高値23908.85 安値23603.48 終値23687.59 ● Market Closed

MA (24, close, 0) 23030.3495
 MA (39, close, 0) 22285.8065



日経平均株価, 日本, 日, 東京 (CFD) 始値23714.52 高値23738.42 安値23603.48 終値23687.59 ● Market Closed

MA (24, close, 0) 23651.2697
 MA (39, close, 0) 23688.3046

